



代々受け継がれし 小原の技術を後世に

小原かご職人
太々野 功さん（余呉町今市）

撮影場所：太々野さん宅

慣れた手つきで、もくもくと籠を編む太々野功さん。太々野さんが丹精込めて作るのは、高時川上流・小原地区発祥の「小原かご」。一子相伝の工芸として鎌倉時代から伝えられてきたもので、その技術は、父親から長男にのみ口伝えて受け継がれる特別なもの。

太々野さんは、余呉町小原の生まれ。次男のため正当な継承者ではありませんが、幼少の頃、近所のおじいさんが作る様子を、見よう見まねで覚えました。現在、その技術を継承しているのは太々野さんただ一人。（公社）国土緑化推進機構が認定する「森の名手・名人」でもあります。

「小原かごを作るのは、簡単ではない」と太々野さんは言います。木を薄

く裂いて編む作業の難しさもさることながら、山に入って良い木を育てることや見分けることが難しいのだそう。材料となるのは、柔軟性のあるイタヤカエデ。これら材料の調達や加工には、熟練の技と相当の手間暇がかかります。「昔のかご作りは、生活そのものだった。全盛期は組合も組織され、市内のいたるところへ売りに出していた」と当時を偲びます。ナタを入れるナタカゴや茶摘み、桑摘み用のツボカゴのほか、商店などで釣り銭を入れておくゼニカゴなど、幅広く用いられていました。

太々野さんは「小原かごは、古くからそこに暮らす人々を支えてきたもの。技術が失われていくことはさびしい。小原に伝わった伝統を無くしたくない」

と、平成20年、仲間とともに「小原かごを復活させる会」を立ち上げました。講師として、後継者育成に情熱を注ぎます。山村で生きてきた太々野さんは、薬草の知識も豊富。また、かつての山の循環をもう一度取り戻そうと、「高時川源流の森と文化を継承する会」会長として、人と森とのつながりを考えながら、森林資源の保全や生活文化を伝承する活動も行っています。

「徐々に体の自由が利かなくなり、山に入るのもひと苦労」ともらしながらも、「後の世代に伝えていくのが自分の役目」だと、春に開講する教室の準備に力が入ります。「後継者ができるまではやめられない」。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報室（☎65-6504）まで申込みください。



おじいちゃんの苺が大好き!!
これからもたくさん食べて、
すくすく元気に育ってね。

（平方南町）

寺居

穂果ちゃん（平成24年12月生まれ）

関本

龍貢ちゃん（平成26年3月生まれ）

（勝町）



いつもかわいい笑顔で
よくしゃべる龍貢ちゃん
これからも元気に成長してね!

まちの人口	平成27年2月1日現在	人口 121,788人	男 59,519人	女 62,269人	世帯数 44,533世帯
	平成27年1月中の異動	転入 201人	転出 199人	出生 100人	死亡 129人 婚姻 43件